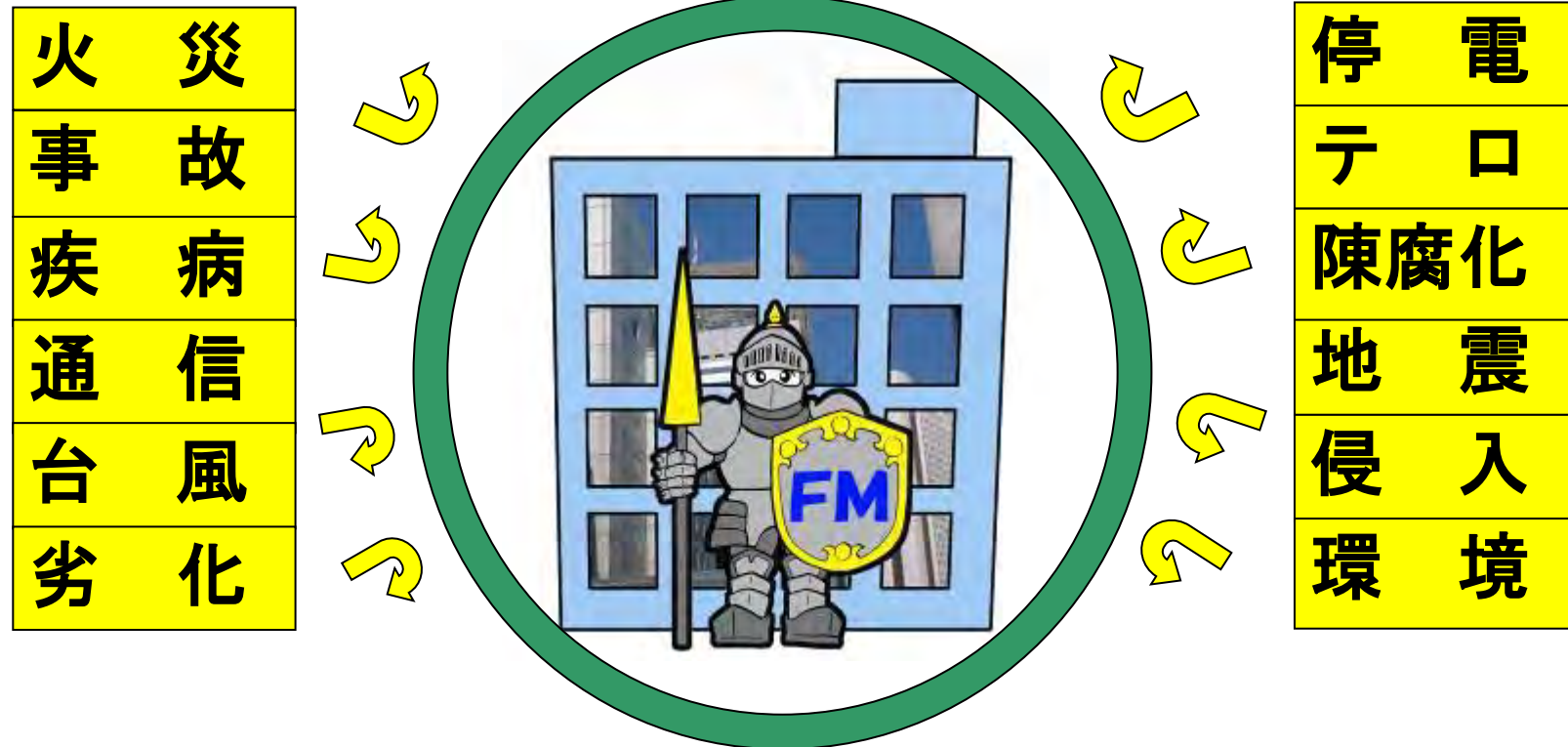


秋の18講座（秋の夜学校改め）

F Mにおけるリスクマネジメントと B C Pの基礎

JFMA・リスクマネジメント研究部会

ファシリティとリスクマネジメント



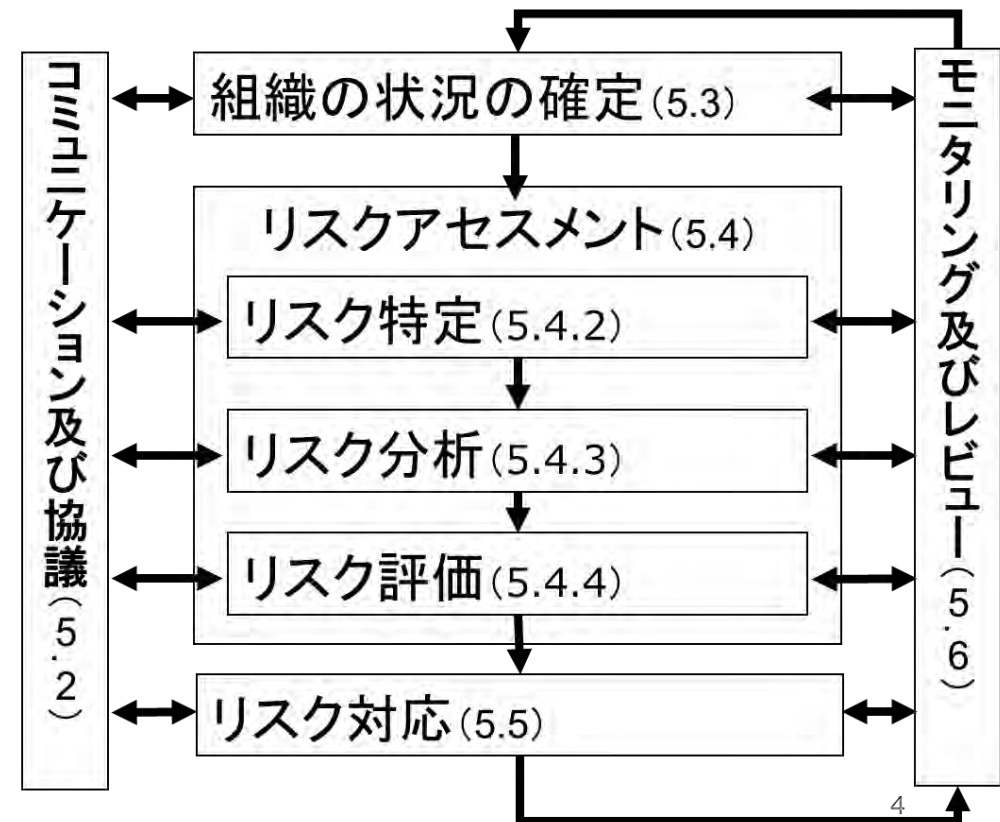
FMは様々なリスクを防ぐ騎士

リスクマネジメント

◆リスクの定義

「目的に対する不確かさの影響」

「悪い事のリスク」は『可能性と結果の組み合わせ』などで考える場合もありますが、リスクは悪い影響ばかりではありません。予想外の好成績もリスクの一つです。また悪いリスクを工夫で良いリスクに転換することも肝要です。



「ISO31000」より
2009年11月にリスクマネジメント手法のガイドラインとして発行されました。

例えば「雨が降りそう」

©KAMIKURA



「明日は雨が降りそうだ・・・」そう思えばカバンに傘を入れますね。「濡れる」というリスクに対して傘で濡れない対策をとるわけです。しかし、暴風雨だったら傘では役に立ちません。リスク要因に合わせた対策が重要です。

具体的かつ有効な対策が必要

一方「明日は雨かあ、別の局の予報は？」と情報ばかり集める人はいますか？「傘が良いかな、カッパが良いかな」と考え続けますか？それより具体的に準備することが肝要ですね。



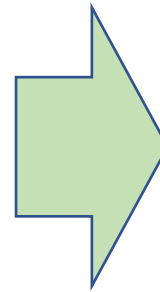
©KAMIKURA

「もし・・・」から「起きたら、こうする」へ

可能性と影響の検討

実施プランの決定者を説得する材料としては重要だが・・・

「検討」だけでは何も解決しない！



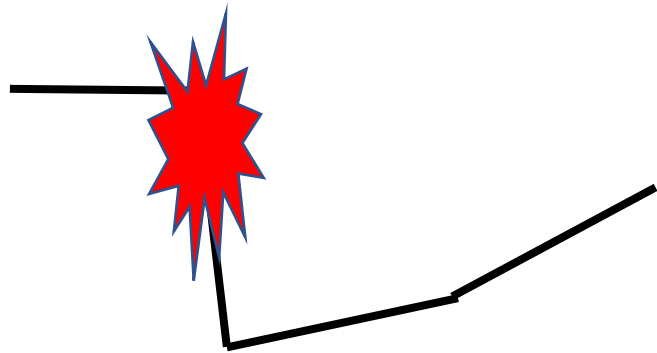
対応策準備と訓練

必要な資機材の事前準備
対応の計画的な教育訓練の実施

- ◆ リスクの影響は事業の継続性・損失額・顧客信用等から考える。
- ◆ 対応実施の効果は、企業の社会的責任・社員のモチベーション・広報効果等から考える。

F Mのリスク

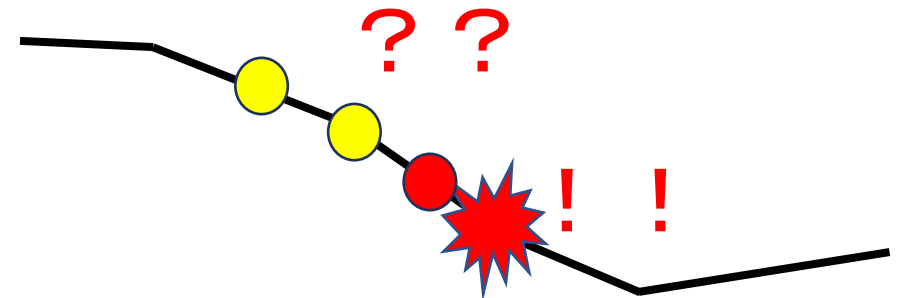
衝撃型のリスク



事案発生により大きな
インパクト

地震・津波・台風・風水害
停電等ライフライン寸断
事件・事故

漸減型のリスク



だらだらと影響・ある時
「アッ」と気が付く

陳腐化・老朽化・技術革新
市場・社会の変化
感染症

立地リスク

ファシリティは一度確保すると容易に建て替え・移転はできません。本来は計画段階から立地リスクを検討すべきです。また、現在の管理ファシリティについて立地リスクを再確認しましょう。



木密地域にデータセンターを建てた会社があります。最新の耐震施設でも、周りが被害甚大では非常用発電機の燃料は届きませんね。津波想定地域に病院を建てる計画もあります。立地リスクはまだまだ軽視されています。

立地リスクとハザードマップ

施設周辺のハザードマップを確認していますか。必ず確認し、地域のリスクを知りましょう。



- ◆ ハザードマップは100%の予測ではありません。災害はもっと大きい場合もあります。
- ◆ 浸水・津波・火災延焼・軟弱地盤・土砂災害等のリスクを事業拠点や寮・社宅の周辺地域で確認しておきましょう。

東京一極集中のリスク

- 建物は丈夫になりました。しかし、地域特性や集中のリスクが解消されたわけではありません。
- リモートワークも出社体制に回帰しつつあるようです。長時間の通勤時間とオフィスの生産性は今まさに見直すべきです。
- 災害時に「本社が機能しない」そんなことにならないようにしましょう。



災害対応と事業継続



大被害

災害対応（緊急時対応）

今、まさに眼前で発生している
危機的状況への対応

対象：自社
担い手：自衛
消防隊等

事業継続

発生した事象の事業への影響
を最小限に止め組織を継続

対象：顧客
担い手：顧客
対応部門

- ◆ 災害対応は発生事案ごとに事前準備・訓練が重要
- ◆ 事業継続はオールハザードへの総合的な組織対応力が重要

事案対応・災害対応は発生事象ごと

風水害



風水害対応
マニュアル

- 天候悪化想定時のタイムライン
- 浸水被害防止対応、被害軽減対応
- 被害発生時の対応
- 復旧作業の対応

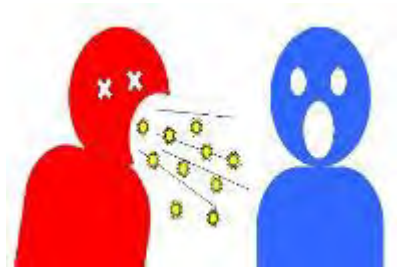
地震



地震対応
マニュアル

- 地震に関する情報・緊急地震速報対応
- 安否確認・傷病者対応・安全点検
- 被害拡大防止・二次災害防止
- 帰宅困難・出社困難・リモート対応

感染症

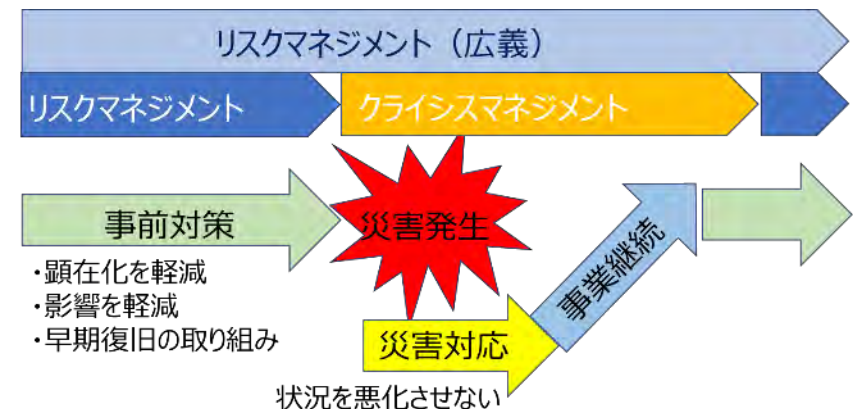
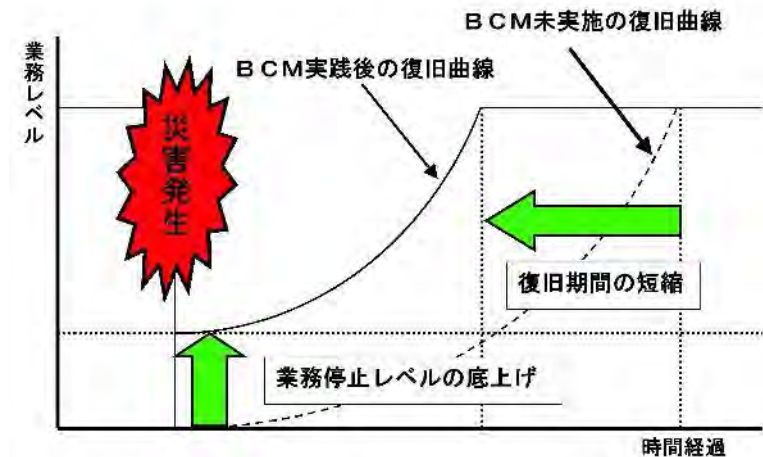


感染症対応
マニュアル

- 感染症情報対応
- 海外発生期の対応
- 国内発生期・国内蔓延期の対応
- 感染状況変化への対応

BCP・事業継続計画

- 事業継続は、事業の遂行に影響するリスクが顕在化した場合に、早期に再開するための取組みです。
- 「事業継続計画」は優先して再開する事業や目標復旧時間、再開ための具体的手順を定めた計画です。
- 平時に準備し、訓練することで有事に役立てる取組みです。
- ファシリティマネジャーは「施設のBCP」と「組織のBCP」に取り組む必要があります。



オールハザード B C P のアプローチ

シンプルに考えよう

重要事業の
リソースに対する
影響

重要事業の継続
を考える

停電

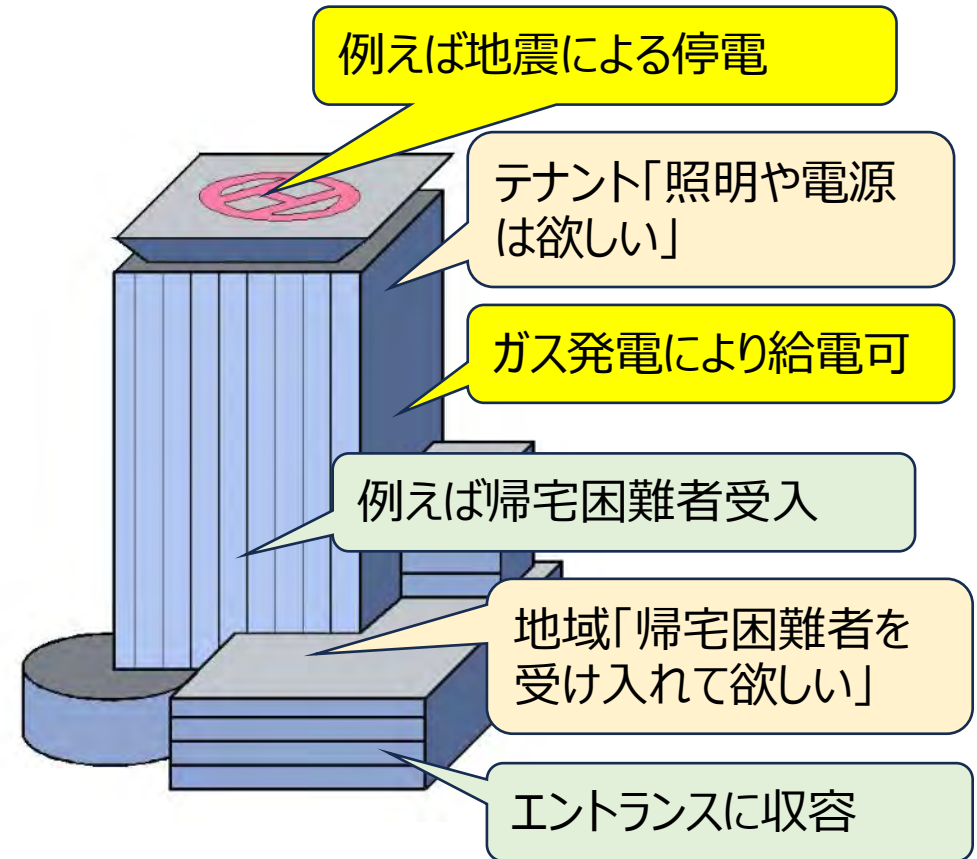
設備が停止

代替・復旧・在庫

事業継続は重要事業とそのプロセスとリソースの検討が最重要です。多様な原因事象から考えず、シンプルにアプローチすることも必要です。

施設のBCP

- 私たちファシリティマネジャーは管理する施設の機能維持を図る必要があります。
- 事案発生時においても、入居する部門やテナントが平時と変わらぬ業務を遂行できることが理想です。
- 影響が出る場合でも、安全を確保し被害を最小限に止め、早期に再開できる取り組みが必要です。



災害にとっても強い施設の登場

昨今の建築技術の進歩により、被害を受けにくい施設が登場しています。

- ・揺れの影響が小さい
- ・停電や断水の影響が小さい

これにより災害時の初動対応が容易で業務継続が可能な施設が増えています。



こんな風景は過去の話になりつつある。「いや～そうは言っても」と言い訳していると時代に遅れ災害時に大変なことになります。

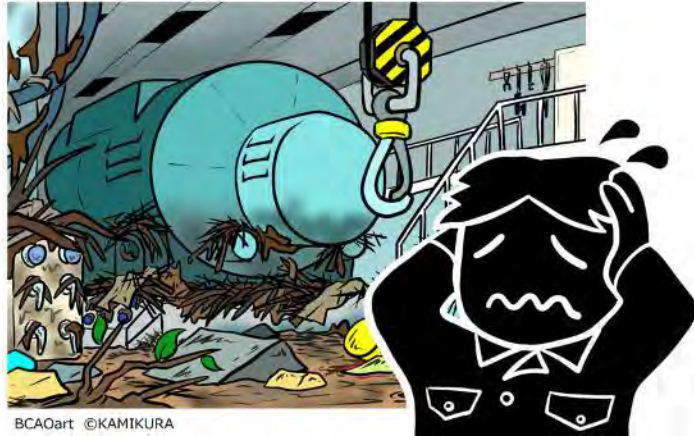
免振・耐震・制振構造
で揺れが小さい

ペーパーレスで
シンプルオフィス

二系統受電やガス発電
により給電可

貯水タンクで災害時も
トイレ使用可

組織のBCP



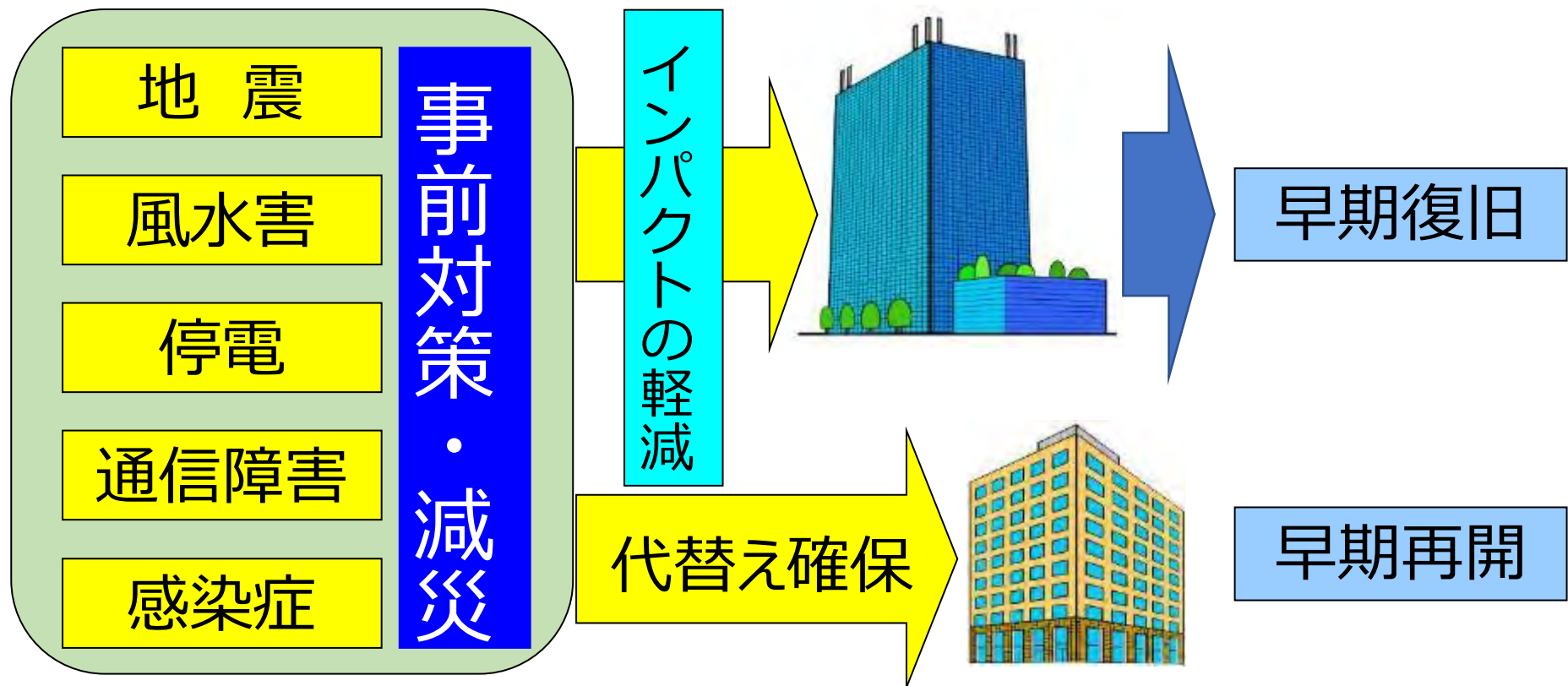
災害などで被災してしまっても、早期に業務を再開し顧客への製品納入やサービス提供を続けることが事業継続です。しかし、予めBCPを定めておかないと何から手を付けて良いか混乱してしまいます。

事案が発生しても日常のトラブル対応の範囲であれば、その取り組みで問題はありません。しかし、大きな災害で人財・設備・材料などが足りなくなってしまった場合には、経営資源を重要業務に優先投入する必要があります。これを定めたものがBCPです。



★ F Mから見た事業継続の取り組み

F Mから見た場合には、事前の対策・減災対策と代替確保も重要な要素です。



訓練し改善し実装する時代

南海トラフには年々南からフィリピンプレートが押し寄せストレスが溜まっています。台風は毎年日本に襲来し、最近では6.7月の梅雨期の水害も毎年のように発生しています。ウ露戦争のように国際的緊張が武力行使に繋がる時代にもなりました。様々なリスクが顕在化する時代になったのです。



©KAMIKURA



訓練は必須です。大規模なものである必要はありません。日々の積み重ね、小イベントによる体験などを計画的に行うことで組織全体の対応力を高めましょう。

(リスク部会で一緒に研究しましょう)

大切な事は・具体的展開

- ◆ 有事においても「より安全で安心な環境」の確保は、ファシリティマネジャーと経営者の責務となる時代を迎えようとしています。
- ◆ 国難災害である「首都直下地震」や「南海トラフ巨大地震」、未曾有の気象災害、国際有事、サイバー攻撃などこれから発生するリスク要因は、これまで経験した物とはけた違いの規模・被害・影響となる可能性があります。過去問解決型の発想では対応できません。
- ◆ 改善や具体的展開は難しいことがあるかも知れません。しかし、ファシリティマネジャーの貴方が諦めてしまったら、誰が組織のファシリティを改善するのでしょうか。だれがより安全で安心して仕事ができる環境を整えるのでしょうか。具体的な取り組みを進めるのは、貴方です。

リスクマネジメント研究部会のご紹介

リスクマネジメント研究部会は、毎月一回リスクマネジメントに関する情報交換、事例研究等を行っています。最近は、新型コロナの関係でzoomでの開催ですので、東京近郊以外の方も参加できます。

施設のリスクの見直し、訓練手法など様々な話題に取り組んでいます。ご興味のある方は、お気軽にJ F M A事務局・大野さんまでご連絡をお願いします。

Zoom開催の研究部会風景

The screenshot shows a Zoom meeting interface. On the left, a presentation slide titled "近年 国内での主な火山噴火 12例" (Recent 12 Major Volcanic Eruptions in Japan) is displayed. The slide contains a table with columns for "噴出年" (Eruption Year), "噴火の大小" (Magnitude of Eruption), "噴火名" (Eruption Name), and "被害概要" (Damage Summary). The table lists 12 major volcanic eruptions from 1989 to 2021. On the right side of the Zoom window, a grid of video thumbnails shows several participants in the meeting.

噴出年	噴火の大小	噴火名	被害概要
1989・11	大規模噴火	伊豆大島	伊豆大島の噴火による被害
1990・11	大規模噴火	御嶽山	御嶽山の噴火による被害
1990・05	中規模噴火	三浦山	三浦山の噴火による被害
1990・07	大規模噴火	浅間山	浅間山の噴火による被害
2004・02	大規模噴火	御嶽山	御嶽山の噴火による被害
2006・09	中規模噴火	御嶽山	御嶽山の噴火による被害
2011・03	大規模噴火	御嶽山	御嶽山の噴火による被害
2014・01	大規模噴火	御嶽山	御嶽山の噴火による被害
2014・02	大規模噴火	御嶽山	御嶽山の噴火による被害
2014・04	大規模噴火	御嶽山	御嶽山の噴火による被害
2020・08	大規模噴火	御嶽山	御嶽山の噴火による被害
2021・02	大規模噴火	御嶽山	御嶽山の噴火による被害